

卓越大学院プログラム

令和元年度プログラム実施状況報告書

採択年度	令和元年度	整理番号	1903
機関名	千葉大学	全体責任者（学長）	徳久 剛史
プログラム責任者	中谷 晴昭	プログラムコーディネーター	中山 俊憲
プログラム名称	革新医療創生CHIBA卓越大学院		

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

プログラムの目的

日本発の革新的ながん免疫治療やAI等の技術の急速な進展により、医療がパラダイムシフトを迎える中、超高齢社会の我が国が、未来モデルとして世界の先頭に立ち新しい医療、サステイナブルな健康社会を牽引するには、新たな「医学の知」を継続的に創出するとともに、その知を活かし、より安全で有効な全く新しい治療薬や治療法へ導くイノベーションを創発し続けることが不可欠である。さらに、より幸福な社会を日本全体で実現するには、医学の知を様々な分野で広く活用し社会実装することが必須である。そのためには、大学院の教育体制を抜本的に改革し、世界を先導する革新医療創生のイノベーターを輩出する必要がある。

千葉大学は、大学院の医学研究科と薬学研究科を統合させた医学薬学府を日本で初めて創設し、医学と他分野融合の教育と研究を先駆けて実践している。また、がん治療の中山恒明博士や免疫学の多田富雄博士らに代表される100年以上の確固たる伝統に立脚し、世界トップ研究機関の理化学研究所（理研）や産業技術総合研究所（産総研）、UC San Diego等の多くの機関と連携して多数の優れた修了生を輩出している。

本プログラムは、理研やUC San Diego等の国内外の一流研究機関及び国内企業と連携し、新しい大学院教育「クラスター制CHIBA教育システム」の下、様々な分野のトップの大学院生が、所属機関や部局等の既成の枠を越えて組織された6つの教育研究クラスターの複数クラスターで学修し、主体的に自ら切磋琢磨することで、複数の分野で主専攻とサブ専攻を修め、俯瞰力と多角的な視点、柔軟な思考、イノベーションマインド、失敗を恐れないスピリットとレジリエンスを有する世界を先導する革新医療創生のイノベーターを育成する。

具体的には、下記の「知のプロフェッショナル」を輩出する。

① 新しい医療を創造するリーダー：基礎研究の成果から新規治療への一点突破型イノベーションを担う「新たな医学の知の創出者」と「基礎臨床展開オーガナイザー」、「複数分野の研究成果を組み合わせる社会実装融合イノベーター」

② 社会の歪みを正すリーダー：医療格差等の是正や医療費削減に向けて、AI等を駆使して様々な方向からアプローチできる卓越人材（調書P.7）

大学の改革構想

学長のリーダーシップの下、千葉大学ビジョンGlobal（国際社会で活躍できる次世代型人材の養成）、Research（研究三峰の推進）、Innovation（次世代を担うイノベーションの創出）、Branding（千葉大学ブランディングの強化）、Synergy（教職員による協働体制の強化）を策定し、「つねに、よ

り高きものを目指して」の基本理念とともに、機能強化の方向性における国立大学分類において重点支援③の「海外大学と伍して、全学的に世界で卓越した教育研究、社会実装を推進する取組を中核とする国立大学」として、様々な大学改革を進めている。本卓越大学院は、グローバルリーダー育成、変化する社会のニーズに迅速に対応できる教育、サステイナブルな教育を柱に優れた大学院教育を20年後も発展・継続させるために、大学院全体の改革の牽引役を果たす。

また、学長のガバナンスの下、次世代医療人育成主体的改革の司令塔として医学と薬学、看護学、附属病院等を統括する「**未来医療教育研究機構**」、次世代理工系人材育成の司令塔として理学や工学、園芸学等を統括する「**自然科学系教育研究機構**」、文系融合型研究・教育改革の司令塔として法政経学や文学、教育学等を統括する「**人文社会科学系教育研究機構**」を設置し、世界最高水準の教育研究拠点の形成を目指している。さらに、千葉大学独自のシステムとして、学長のリーダーシップにより平成28年に設置された**グローバルプロミネント研究基幹**は、国際的に卓越した研究の強化や次世代リーダーの育成、他分野間の融合研究を推進している。

これらの大学全体での取組に加え、本卓越大学院のクラスター教育システムは、国や産官学の枠を越え、従前の融合研究のレベルを超越した新しい体制である。特に、医師や薬剤師等の専門職養成のために教育体制の縛りを有する医学と薬学が中軸となり困難を乗り越え大学院教育体制の変革を推進することは、他分野を含めて大学院教育全体の改革の一層の加速化につながる。

さらに、本卓越大学院では、「千葉国際治療学産学連携イニシアチブ」を組織し、日本企業の優秀な社員の博士号取得を支援するとともに、企業からの継続的な共同教育資金により大学院教育を発展・継続する新しい「知と人材と企業資金を循環させる」システムを構築し、プログラムを発展・継続できる体制にしている。これらの新しいシステムは、千葉大学全体の大学院教育体制の発展のみならず、他大学の大学院改革を牽引すると期待される。（調書P. 15, 16）

2. プログラムの進捗状況

令和元年度はプログラム実施のための整備期間であり、指導・支援体制、企画・運営・連携体制、教育カリキュラム、教育研究環境、専用ホームページ等の整備とともに、令和2年4月プログラム入学者の選抜試験を実施した。具体的には下記の通りである。

実施・運営体制の構築状況

- 1) 国や機関、部局の枠を越えてきめ細かに学生を指導する65名のプログラム担当者からなる革新医療創生CHIBA卓越大学院の教育体制、グローバル教育体制のCITIP (Chiba Innovative Therapeutics International Program)、産官学横断教育体制のCITICO (Chiba Innovative Therapeutics Industry Consortium)、千葉国際治療学産学連携イニシアチブを確立した。
- 2) 産官学のリーダーから構成されプログラムの運営に際して助言・指導等を行う「千葉統括会議」を組織した。
- 3) 第1回革新医療創生CHIBA卓越大学院運営会議を開催し、運営会議の位置付け等を決定し、学生選抜委員会や学生支援委員会等の8つの委員会を設置した（令和元年11月11日）。
- 4) 学長主導の特別FDを開催する（令和元年11月11日）とともに、プログラム担当者会議を開催し（令和2年2月21日）、プログラムの理念や目的、大学改革の方向性等について、プログラムの全教員で共有した。

構想・計画の進捗状況

- 1) 学位記に「革新医療創生CHIBA卓越大学院を修了したことを認める」と付記することを千葉大学学位規程に定めた。
- 2) 第1回革新医療創生CHIBA卓越大学院運営会議にてディプロマ・ポリシーや修業年限等の修了要件を承認した（令和元年11月11日）。
- 3) 革新医療創生演習や卓越教養特論、AI情報医学特論等の本プログラムの新規科目のシラバスを作成した。
- 4) プログラム専用のホームページ作成と公開（令和元年11月16日）、和文と英文のパンフレット作成（令和2年1月30日）、修士・博士一貫教育課程と4年博士課程の選抜要項の作成（令和元年11月11日）を行い、広く優秀な学生を募集した。
- 5) プログラム学生の選抜を実施し、修士・博士一貫課程の学生選抜では7名の合格者、一貫課程3年次（博士課程1年次）の編入生選抜では8名の合格者を

決定した。

- 6) 優秀な博士課程学生が学業及び研究に専念するための教育研究支援経費（20万円/月）として実施要項と支給要項を制定する（令和2年3月24日、令和2年4月1日）とともに、リサーチ・アシスタント(RA)に関しRA募集要項やRA研究業務計画書等を策定（令和2年3月10日）、承認した（令和2年3月24日）。
- 7) 学生自身のアイデアに基づく自主研究に関して、特別研究費（博士学生は上限60万円/年、修士学生は上限30万円/年）の取扱いと卓越研究費研究計画調書を策定（令和2年3月10日）、承認した（令和2年3月24日）。
- 8) プログラム学生の専用スペースとして、医薬系総合研究棟に359m²を確保した。
- 9) 学生の学修支援として、卓越大学院プログラム担当事務と人材育成支援ポートを設置するとともに、特任教員2名及び事務補佐員5名、技術補佐員3名を雇用した。

【令和元年度実績：大学院教育全体の改革への取組状況】

・本事業を通じた大学院教育全体の改革への取組状況、及び次年度以降の見通しについて

1) 大学院教育全体の改革への取組状況

本卓越大学院は、部局や分野の枠を取り払った新しいクラスター制CHIBA教育システムで教育研究を推進するものであり、学長のガバナンスの下で「教教分離」を実施して設置された3つの教育研究機構「未来医療教育研究機構」、「自然科学系教育研究機構」、「人文社会科学系教育研究機構」を牽引し、世界トップクラスのグローバル教育を大学全体で達成するための要である。進級試験や産官学の教育体制等を文系も含め千葉大学の全大学院へ拡大する体制の整備も進めている。Research 戦略の一つとして設置された「グローバルプロミネント研究基幹」からの戦略的トップダウン支援により構築されたUC San Diego等との強固な国際教育ネットワークをモデルに、千葉大学の大学改革を加速し、永続的な世界最高水準の教育研究拠点の創設を推進している。

2) 次年度以降の見通しについて

学長の主導によりグローバル人材の育成のために創設した国際未来教育基幹が中心となり、全学生を海外留学させるENGINE（Enhanced Network for Global Innovative Education）プログラムがスタートするとともに、グローバル人材育成の大学全体のシステム改革が進む。人文系が中心となり令和元年度に採択された卓越大学院「アジアユーラシア・グローバルリーダー養成のための臨床人文学教育プログラム」とともに、異分野融合教育を推進し、学際領域、新領域において高度な「知のプロフェッショナル」の育成を推進する。